

Genus *Hastulopsis* n. g. シラネタケ属Type species: *Terebra melanacme* Smith シラネタケ

原殻はシチクガイ系で、縦筋は幼層から始り、ゴトウタケ以外は生長しても強くならず、縫合下帯はシチクガイ属のように彩られるがしばしば不規則で、刻点列がそれを区切るが明瞭を欠くこともあり、周縁はやゝ角張る。

本属は一見シチクガイ属に似るが、成貝でも周縁が角張り、又刻点列が(時には不顕著だが)縫合下帯を区切るから区別される。又シラネタケ属よりは原殻が小さい。

*H. melanacme* (Smith, 1875) シラネタケ*H. alveolata* (Hinds, 1844) フシダカシチク*H. sp.* ホソツヤタケ*H. gotoensis* (Smith, 1879) ゴトウタケ

OYAMA 1961 Venus 21 p. 281

*Hastulopsis* Oyama, 1961, Venus 21 (2): 181. Type species, *Terebra melanacme* E. A. Smith, 1875, recent, Japan.

B &amp; C 1907

*Hastulopsis* Oyama, 1961 シラネタケ属

熱帯地方から関東地方にまで分布するが、数 m. から 20~30 m. までの所に多く、外洋水要素か外洋水がかなり影響する所に産する。

*H. melanacme* (Smith, 1875) シラネタケは宮崎県・淡路島・志摩・銚子附近・北九州(肥前)等に産して分布が広いが、どこにも見られる種類ではなく、飛び石状に分布する。野村, 1936 の山形県湯野浜産は本種でない。化石は成田行から知られて居る。

*H. gotoensis* (Smith, 1879) ゴトウタケは九州西岸(五島嶼産)から山口県の日本海側にわたり分布し、平瀬は淡路島からも報告した。高知県唐ノ浜(唐ノ浜村群)から化石として報告された標本は属種の査定困難な標本であった。

*H. sp.* フシダカシチクと云う和名で私が取扱った貝は奄美大島産で、瀬戸内村安脚場(あんきゃば)附近の岩礁の附近に溜った深度数 m. の砂底から採集された。

*H. sp.* ホソツヤタケは平瀬が奄美大島から報告した。

*H. ? sp.* ヒカリトクサモドキ(紀伊産)と *H. ? sp.* ススタケ(長久島産)とは再発見されない。

OYAMA 1961 p. 444 (VENUS 21)